

## 平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	生涯スポーツ論 (Sport for Everyone )			授業コード	E048301			
担当教員名	永松 昌樹			科目ナンバリングコード	E20710			
配当学年	2	開講期	前期					
必修・選択区分	選択	単位数	2					
履修上の注意または履修条件	○テキストは、講義に必携すること。 ○演習ノートの作成は手書きとし、A4版レポート用紙の左上をステーブル等で留めること。							
受講心得	○経営経済学部の定める「受講心得等」を守ること。							
教科書	生涯スポーツの社会経済学・池田勝編・杏林書院							
参考文献及び指定図書	スポーツに遊ぶ社会にむけて・島崎仁著・不昧堂出版 スポーツルールの論理・守能信次著・大修館書店							
関連科目	生涯スポーツ演習							

授業の目的	「多様異質なる個人的・社会的特有を有しているすべてのひとり一人が、各自あるいは共同し、生涯にわたって主体的にスポーツ環境に働きかけつつ、スポーツ環境に働きかけつつ、スポーツ経験を自立的に改造享受する文化的行動過程の総体である。」(島崎仁、1988)。人生百年時代とも評される日本社会にあって、生涯スポーツは人間とスポーツの関係を再考する有益な概念でもある。この科目では、ヒトが誕生し死に至るまでのライフステージを軸に生涯スポーツについて論考する。 受講生の家族、友人など身近な人々とスポーツの関係性を理解することを出発点とし、生涯スポーツ社会の実現に向けた課題と解決策を論理的に説明できる能力を獲得することが到達の目標となる。
授業の概要	この科目では、予習→講義→復習により、各回の演習ノート提出が求められる。 予習では、1時間程度の学習が要求される。シラバスに示したテキスト部分を読み終え、毎回の鍵概念と自身の生活との関係についての感想と意見をまとめることが必要となる。講義時において、各自の感想と意見を発表することが要求される。 90分の講義では、生涯スポーツの理論と鍵概念の理解を深める。また、受講生各自が予習によって持ち寄った疑問を取り上げ、復習において受講生各自で作成する演習ノートの課題として提示し、解決方策を考えるうえで有用と考えられる統計などの情報を提供する。 復習では、A4版レポート用紙(2ページ分)の演習ノートを作成する。 1) 予習から講義を経て得られた知見を記載する。 2) 課題について具体的な提案を実証的根拠も含めて論述する。 ○経営経済学部の定める「受講心得等」を守ること。 ○テキストは、講義に必携すること。 ○演習ノートの作成は手書きとし、A4版レポート用紙の左上をステーブル等で留めること。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：生涯スポーツ論の学び方 学校体育と社会体育 スポーツ・フォア・オール	教科書の準備 シラバス確認・演習ノート
第2週：生涯スポーツの現在・未来① スポーツ・フォア・エブリワン ナレッジマネジメント	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第3週：生涯スポーツの現在・未来② アクティブ・スポーツ人口 コンパス・プロジェクト	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート

第4週：異文化にほふスポーツ文化のかほり 食とスポーツ スポーツ文化	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第5週：体育活動の経済的価値① トリム運動 ゴールデン・プランと第二の道	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第6週：体育活動の経済的価値② 企業内運動プログラムの費用便益 体育経済学	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第7週：健康づくりの経済学的研究 企業フィットネス 費用便益分析	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第8週：スポーツ経済論のパースペクティブ ライフライン コストラインとベネフィットライン	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第9週：生涯スポーツイベントの経済効果 ワールドゲームズ ワールドマスターズゲームズ	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第10週：日本の体育・スポーツ、国際化への提言 新ヨーロッパ・スポーツ憲章 スポーツ倫理綱領	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第11週：スポーツ政策研究の国際動向 ボスマン判決 ドーピング政策	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第12週：スポーツ人口増加を目指したキャンペーン政策 シナリオ パッケージ	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第13週：運動プログラム参加の促進条件 adherence compliance	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第14週：生涯スポーツにおけるクラブ事業の課題 スポーツクラブ事業 クラブ事業のマネジメント	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第15週：スポーツ・スポンサーシップ スポンサーシップの効果 スポンサーの獲得	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第16週：期末試験	生涯スポーツ論まとめ 振り返りと課題の明確化
授業の運営方法	(1)授業の形式 「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式
	(3)アクティブラーニング
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目
備考	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	予習によって生じた疑問を講義の受講によって理解を深め、さらに復習を進めること。
【知識・理解】	講義で取り上げる鍵概念の理解、スポーツ事象にみられる経営経済学的な理論に基づいた生涯スポーツの位置づけを提示できること。
【技能・表現・コミュニケーション】	受講者自身のキャリアや周囲の状況と考え併せ、自らの言葉で語り記すことができること。

【思考・判断・創造】	受講生各自の問題意識と課題解決への提案とその独創性を作り上げること。
------------	------------------------------------

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点		5点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	10点	15点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	15点	5点	
【思考・判断・創造】 ※「考え方抜く力」を含む。	10点	15点	5点	
(「人間力」について)				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に發揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	予習によって生じた疑問を講義の受講によって理解を深め、さらに復習を進めることによる学修の深化を、受講生各自の問題意識と課題解決への提案内容の具体性について確認する。演習ノートは評価後、受講生へ返却する。各回の演習ノートの評価得点は、優3点・良2点・可1点・不可0点とする。
発表・その他(無形成果)	講義中の発表や発言の内容にテーマに対する関心・意欲・態度について確認する。特に、独創的な考え方を論理的にコメントすることが望まれる。